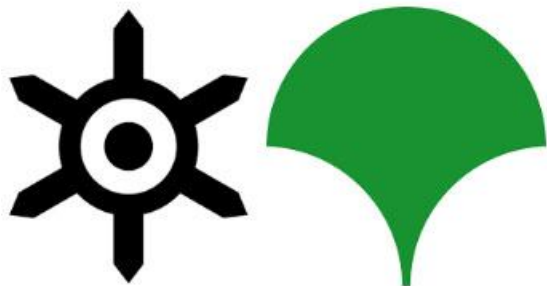


「東京のイチョウ」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

東京にはイチョウの木が多い。街路樹としても公園の木としても、大学の並木路にもイチョウが多く植えられている。



東京都の「正式な都章」は左のものだ。何と、明治22年に「東京市の市章」として制定され、その後東京都が受け継ぎ、100年以上使われているというから驚きだ。東京都の発展を願い、太陽を中心に六方向に光が放たれている様を表わしているらしい。「日」「本」「東」「京」「市」の漢字五文字を表わしているという説もある。マンホールなどには、今でもこのマークがよく見られる。

この骨董的な価値のあるマークとは別に、よく見かけるのが、右側の緑のマークだ。これは紛れもなく「イチョウ」を図案化したものだ。これが正式な都章と思っている方も多いかも知れない。



このマークはいたるところで目にする。都営交通(都バス、都営地下鉄、舎人ライナーなど)の車体には、必ずこのロゴマークが見られる。

都内のイチョウは11月中旬になってやっと色づき始め、一番美しくなるのは12月上旬である。



後樂園遊園地脇のイチョウ並木 (12月上旬)



伝通院(文京区小石川)のイチョウ並木 (12月上旬)



理科準備室にある私の席からも、美しく色づいたイチョウが見える。四季を通じてイチョウの変化をすぐそばで見られるのは、とても嬉しいことだ。

近年東京ではほとんど雪が積もらないので、イチョウも葉を落とす必要がなく、半ば常緑樹化しているようにも思える。気象庁は、「気温が氷点下になった日」を「冬日」と規定している。東京にはもはや「冬という季節」はなくなってしまったのかも知れない。